

ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社様の支援により、 当院に関西初となるインタラクティブ壁紙、 国内2例目となるモバイル・ムービー・シアターが関西に初登場

10月7日(月)にウォルト・ディズニー・ジャパン(株)様から当院にご提供いただいたインタラクティブ壁紙(1階外来採血待合、救急外来プレイコーナー、4階手術エリアの院内3か所に設置)がお披露目されました。

壁紙は、専用アプリ「ディズニー チーム・オブ・ヒーローズ」と連動し、スマートフォンやタブレット端末をかざすと様々なゲームや動画をお楽しみいただけます。

あわせて、1階総合受付待合にモバイル・ムービー・シアターが設置されました。

皆さま、待合時間にぜひお楽しみください。



インタラクティブ壁紙



モバイル・ムービー・シアター

令和6年11月からHPのリニューアルを行いました。
ユーザビリティの観点に基づき利用者視点で項目及び構成の見直し、魅力あるコンテンツの追加を行いました。当院のHPにぜひアクセスください。



Concept コンセプト

●**基本理念** 周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になって子どもたちの健やかな成長を目指します。

- 基本方針**
1. 患者の権利を尊重した医療の実践
 2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
 3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
 4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
 5. 親とこどもが一体となった治療の推進
 6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
 7. 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
 8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化



編集後記

12月号の編集を終えて、1年が終わるのは早いものですね。今年の夏はいつにも増して猛暑(酷暑)が続き、皆様体調は大丈夫でしたか?日本にはもう四季は無くなり二季になるのかもしれない。でも、今年はパリオリンピックもあり、大いに盛り上がりましたね!これから寒い冬になり、感染症も流行する季節となります。手洗い、うがい、マスク着用を心がけ元氣いっぱい乗り切りましょう!(K.M)

委員 長: 貝藤裕史
副委員 長: 大津雅秀 島田貴子
委員: 深江登志子 猪股高爾
大西美樹 林卓郎
菊池真由美 藤田真理子
新井良子 松下伊都子
上西美奈子 中村直子
笹倉明子 三木貴久子
森くるみ 山川真矢
永安正典 小林穂花

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで



兵庫県立こども病院
HYOGO PREFECTURAL
KOBÉ
CHILDREN'S
HOSPITAL

〒650-0047
神戸市中央区港島南町1丁目6-7
TEL.078-945-7300
FAX.078-302-1023
<https://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>
e-mail:info_kch@hp.pref.hyogo.jp

06病 P2-015A4

げんき No.86 カエル

兵庫県立こども病院
ニュースレター



令和6年(2024) 12月1日

『こどもサウンドラリー』 — 産学官連携で治療を応援する「神戸こどもがつながるプロジェクト」

ホスピタルプレイスペシャリスト (保育士) 奥田・田中

兵庫県立こども病院/神戸大学では、2023年より神戸医療産業都市推進機構DX関連企業が連携して、市内で療養する子どもの療養環境の改善を目指す『神戸こどもがつながるプロジェクト』を進めています。

今回、プロジェクトの一つとして7階東西の両病棟で、『こどもサウンドラリー』を開催しました。このサウンドラリーは病棟の廊下やプレイルームに「まち」「もり」「かわ」「うみ」の4つのコーナーを設けて、そこに行くとコーナーに関係した動物の鳴き声、車や波の音が聞こえてくるものです。音はクイズになっていて、子ども達はそれぞれのコーナーへ行って何の音が鳴っているかを考えて、正解と思う絵にシールを貼っていきます。共同企業のTOA株式会社様が最新の音響技術を搭載した機材を提供してくださり、スピーカーに近づくとまるでその場所に入り込んだような臨場感たっぷりの音を聴くことができました。乳児から学童児まで幅広い年齢の子どもが参加し、親子で音に耳を澄ませたり、友達と一緒にクイズを考えたりしてたくさんの笑顔がみられました。

開催後のアンケートでは「いろんな場所であって歩くだけでも楽しかった」「音がキレイで自然を感じられた」「何の音?と親子で言い合ってた楽しかった」「入院中だけれども外を散歩している気持ちになって楽しかった」「耳を澄ますということがあまりなくて面白かった」と喜びの声をたくさんいただきました。

『神戸こどもがつながるプロジェクト』は、外界

から隔絶された療養中の子どもたちがたくさんの人や物事とつながることを目指しています。治療中も成長する子どもたちがたくさんのつながりの中で、「治る」だけでなく「育つ」病院でいられるように願っています。





娘とともに

りーり

2003年11月27日パルモア病院で産声をあげた娘。

生まれてからは普通の生活で年子の兄とも仲良く、時には兄妹ケンカをして兄を泣かせたりしていました。区役所などの定期健診でも引っかかることなく過ごしていました。

異変を感じたのは3人目を妊娠した辺りからで歩いてもつま先歩きになったり、よくこけたり、抱っこを要求してきたりしていましたが、その他はコレといって何もなく、赤ちゃん返りかと思ったり…思いたかったり…。

当時、通っていた小児科の先生に紹介状を書いていただきこども病院の門をくぐりました。

「歩きがおかしい」という事だったので整形外科を受診しましたが、整形外科的には何もなく、S先生から「ここまで来たんだから神経内科でMRIを撮ってもらいなさい」と言われMRIを撮ったところ、「画像的におかしいけれど第3子の出産が終わって落ち着いたらまた電話をください」と言われました。ところが出産当日に娘は筋緊張の発作が出てこども病院へ…それを知らされたのは出産後2日ほどたってからでした。すぐに会いに行きたかったのですがそれも叶わず、産婦人科の退院後に会いに行った娘は変わり果てた姿でした。

発作の前日も寝る時までお話ししてアイスクリームを食べていたのに…心は追いつきませんでした。家には長男も生まれたばかりの次男もいましたのでクヨクヨする暇もなく日々を消化していたのを思い出します。

そこからはもう怒涛の日々です。娘の面会に行ったらオッパイが張ってきたら家に帰り、また夜に顔を見に行きました。なかなか病名もつかず、病名がついた時には聞いた事もない名前…10万人に1人の確率?!なぜウチの娘が…そんな事を思っている、病気の性質的に診断されてから病状が一気に進んでいき、そこから医療的ケアとの付き合いが始まりました。

当時は今の様にデイサービスなどもなくて母子通園でした。でもこれが良かった!同級生ママや先輩ママ達からたくさんの事を教えていただきアドバイスもたくさんいただきました。今の私たちがいるのもあの当時があったからだと思います。

突然、障がい児のママになった私には通所・支援学校での出会いには本当に助けられました。そして病院でも親身になってくださる先生や看護師さんたちに助けていただき、発症後、長くて5年なんて書かれている病気の説明をグリーンと更新して今年21歳です。

この5月までこども病院には本当にお世話になりました。移行して約半年。まだまだ不安はいっぱいだけど、これからも娘と頑張っけて日々を楽しんでいきたいです。

お世話になった看護師さんたち!またどこかで元気にお会いできますように!!



家庭内事故の予防について



小児プライマリーケア認定看護師
長谷川 弘美

こどもの「不慮の事故」における死亡数は、病気を含むすべての死因の中でも上位にあります。そして交通事故を除く「不慮の事故」の発生場所は家庭内が大半となっています。

こどもは、発達が進むにつれてできることが増え、注意すべき視点もそのこどもの発達に合わせて変更する必要があります。



全国の直近5年間で246件発生している溺水事故は、「浴槽での溺水」が最も多くなっており、また、温かい食べ物や熱を発生する電化製品による熱傷も増えてきます。寒くなると浴槽にお湯を張る家庭が増え、温かい食べ物が食卓に上がることが多くなると思いますので、今回は不慮の事故の中でも上位にある「溺水」と「熱傷」についてお話しします。

「溺水」は、よく夏場に川や海で溺れるニュースが耳にされることは多いと思いますが、家庭内でも「溺水」は起こります。家庭内での「溺水」を予防するため下記の事に気をつけましょう。

対策として

- 大人が洗髪する際には、こどもを浴槽から出しましょう。
- お風呂から上がる際には、こどもを先に浴槽・浴室から出しましょう。こどもが浴室に入ってしまう、浴槽をのぞき込み転落し、溺れることがあります。
- 入浴後は、浴槽の水を抜き、浴室には外鍵を付けてこどもが入れないようにしましょう。

* 災害時の断水の対策として浴槽の水を置いておく場合は、風呂蓋を閉め浴室の鍵を閉めるようにしましょう。



「熱傷」は、事故の原因として、電気ケトルのコードを引っ張ってしまった、ストーブ・アイロン・ホットプレート・炊飯器に触ってしまった、味噌汁やカップ麺がかかったといったものが多くあります。

対策として

- キッチンにこどもが入らないようベビーゲートを設置する。
- 手の届く所に電源を入れたホットプレートやアイロン、電気ケトルを置かない、ストーブの周りに囲いをする。



こどもから四六時中目を離さないということは、現実的な対策ではありません。

事例を参考に、今一度事故が起こらないように家族の生活に合わせた予防策を考えてみてください。

参考文献：こども家庭庁,こどもの不慮の事故の発生傾向と対策こども家庭庁,事故防止ハンドブック

https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/b968efe0-f049-48d7-8a03-ccf03fd2ce09/dd7838b7/20230401_councils_child-safety-actions-review-meetings_202303_01.pdf